

一般社団法人 日本医療経営実践協会 2018 年度<指定課題研究助成> 最終報告書

テーマ：医師・病院業務等の働き方改革に関する研究—RPA の有用性の検討

氏名：中田 典生

所属：東京慈恵会医科大学 ICT 戦略室

要旨

近年、医療従事者の働き方改革が問題となっている。そこで金融などで活用が盛んになってきた Robotic Process Automation (RPA) に注目し、RPA により人に代わってパソコン上の事務処理を行うことにより業務効率を飛躍的に向上させることにより医師自身の事務処理業務効率の向上が期待できることはもちろん、医師以外の事務職員・看護師に RPA を使用してもらって業務軽減を図り、結果として医師のタスク・シフティングを実現することも可能となることが考えられる。そこで本研究では、対象業務を”外来患者数報告”と”退院サマリ毎日催促”の2つを本研究の対象として、RPA によりどの程度の業務遂行時間の短縮が図れるかを実証した。その結果、外来患者数報告業務では、RPA とにより平均 54.6%の時間短縮、退院サマリ毎日催促では RPA により 84.8%の時間短縮が可能となった。RPA は、これまで人が行っていた業務を代替でき、人よりも正確かつ迅速に作業を行うことができるため、医療現場が抱える『過重労働』『加算漏れ』『医療安全』の課題解決に有効であると考えられた。